

「潮彩の渚」(人工干潟)において、夏休み調査体験会を開催しました



当事務所構内の生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)において、東京湾内各地での継続調査である“江戸前アサリ「わくわく」調査”と、外来生物等の観察調査である“横浜の海はいま?”を実施しました。

江戸前アサリ「わくわく」調査 では、小学生の体験調査員を募り、講師には東邦大学名誉教授の風呂田先生をお招きし、人工干潟の上・中段の合計 12 箇所調査しました。

調査の概要は、縦 25cm×横 25cm の枠内を 10cm 程度の深さまで土砂を掘り、その中のアサリの個体数や大きさを調べるというものです。また、熱中症対策と感染症対策に配慮したプログラム構成で開催しました。

まず、風呂田先生より東京湾におけるアサリ等の海洋生物の現況についてお話いただき、その後の屋外調査では干潟の生物も観察しつつアサリを採取し、屋内での計測調査では小さな稚貝が多いためか、1つ1つ集中して計測している様子がみられました。

参加者の皆さんからは、貝の大きさは小さいもののたくさんの稚貝が確認できたことに驚きの声が多く、人工干潟での生物生息について理解が深まったようでした。

実施日 : 令和 4 年 7 月 28 日 (木) 10:00~12:00

場所 : 潮彩の渚 (当事務所構内の人工干潟)

調査者 : 一般応募の小学生 10 名、同伴者 5 名、小学校教諭 1 名



風呂田名誉教授による座学



アサリの採取状況



採取したアサリや貝殻



アサリの計測状況 (稚貝を計測)

横浜の海はいま？ (外来生物等の観察調査)においても小学生の体験調査員を募り、講師には神奈川大学・北里大学非常勤講師の植田先生をお招きしました。

植田先生より護岸に付着する生物の概要や観察上のポイントなどを説明した後、「潮彩の渚」で観察用の生物を採取し、室内で採取した生物の観察や外来生物の説明を受けました。当日は猛暑日であったため屋外での活動時間を短縮しましたが代替えの生物観察としてタッチプールの設置も取り入れました。

参加者の皆さんは護岸や石材に張り付いたフジツボ等の剥ぎ取りに苦勞したり、自分の手で採取した生物を喜んで眺めたり、これは何の生物なのかを先生に聞きに行く様子も多く見受けられました。

参加者の皆さんは、今回の調査体験会を通じて外来生物と人との関わりをあらためて理解できたようで、また 海洋生物や身の回りの外来生物への新たな関心が沸いたようでした。

- 実施日 : 令和4年8月2日(火) 13:00~15:00
場 所 : 潮彩の渚(当事務所内の人工干潟)
参加者 : 一般応募の小学生 11名、同伴者 8名、小学校教諭 1名



外来生物等の採取



植田先生による座学

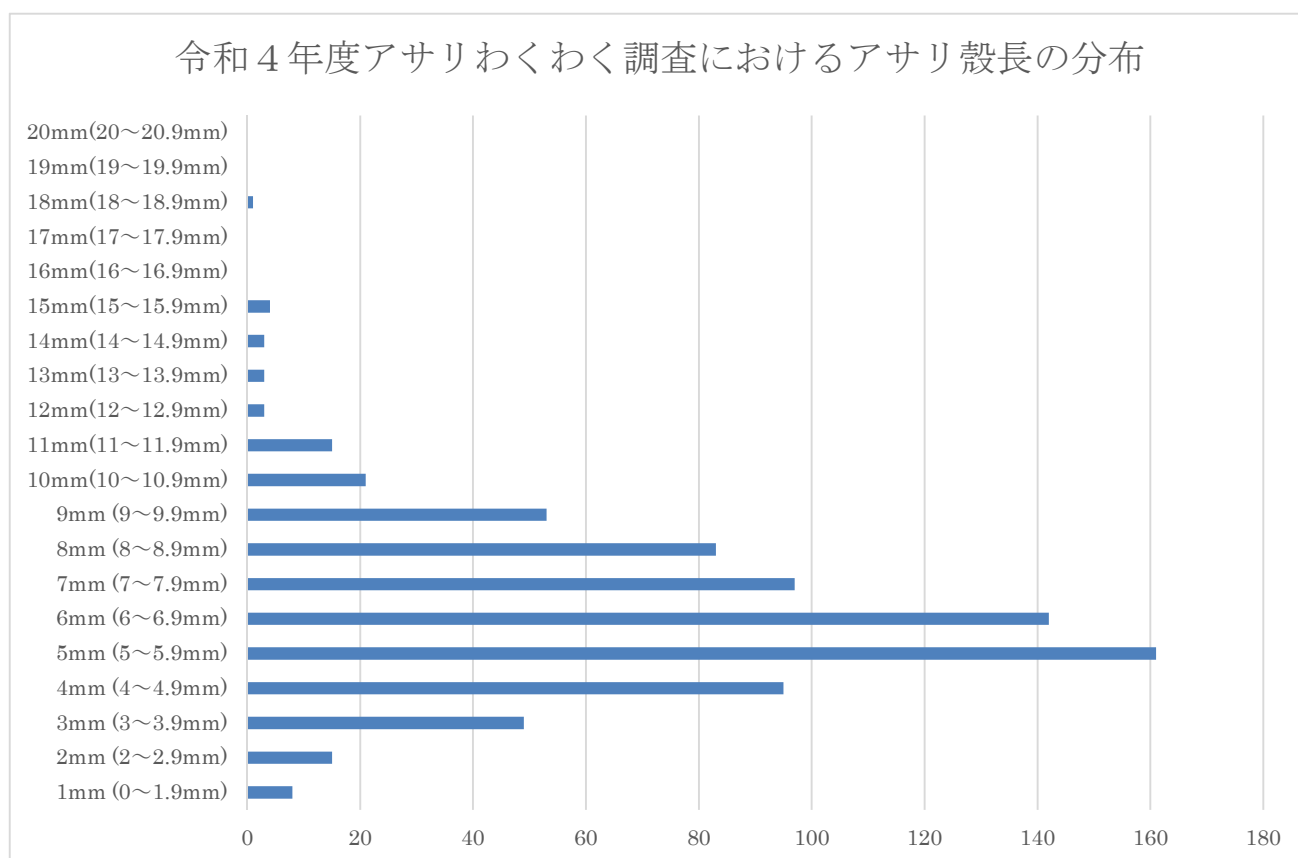


観察用の生物



付着生物観察と先生の解説

【ご参考：アサリわくわく調査の結果概要】




調査結果は調査地点 12 箇所(25×25×10cm/1箇所)で合計 753 個、殻長は 1mm～18mm でした。

- ・ 1 箇所あたりの単純比較としては昨年度と同程度のアサリを確認しました。今後はアサリの生育状況を継続観察しつつ、人工干潟での調査・試験に取り組みます。
- ・ 調査結果の詳細は、江戸前アサリ「わくわく」調査の結果を取りまとめている国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部に報告しました。

横浜港湾空港技術調査事務所は、今後も小学生等の学習体験機会の創出や新たな調査視点の1つとして一般応募等による調査体験会等に取り組み、皆様と協働した環境調査等を推進します。



(お問い合わせ先)

 国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
〒221-0053 横浜市神奈川区橋本町 2-1-4
TEL: 045-461-3896 MAIL: info-y83ab@milit.go.jp *は@マーク
環境課長 大坪貴明